

2021年4月

民俗 — No. 22

# けんぱくものしりシート

## ひ 火のし



この小さな入れ物  
は何だろう？



「火のし」って書いてあるよ。



はい、これはまだ、  
日本に電気がない

時代に使われた、着物や布のシワを

のばしたり、かわかしたりする道具です。

そうです。昔のアイロンですね。

火のしは、鉄や真ちゅうなどの金属で作られた器（火おけ）に、

焼けた炭を入れ、熱と容器の重みを利用してシワを

のばします。器の底は、平らでなめらかにみがかれ

ていて、すべりが良いように工夫されていますよ。



熱くなったのは、どうやってわかるのかな？



今のように、温度調節機能もないので、指につばをつけてサッとさ

わったり、ほおに近づけてみたりしたんですって。使う時は、布を一枚

重ねる工夫もしていたけれど、炭火の熱は、調節がむずかしく、うっ

かり布をこがしてしまうこともあったようですよ。



さわるなんて危ないね。  
やけどしちゃうよ。



むかしの人たちは大変だった  
のね。



アイロン





火のしの歴史は古く、古代、朝鮮半島から伝えられたとされていて、  
大阪府柏原市の高井田山古墳からは5世紀末ころの

火のしが見つかっています。また平安時代の書物には、  
貴族の寝床を温める様子が書かれています、

シワ取り以外にも使われていたことがわかります。

火のしが庶民にも広まったのは江戸時代中期からで、  
おもに着物の仕立て屋などの職人に使われました。



すみび  
炭火アイロン

明治時代になると、イギリスから  
炭火を入れて使う「炭火アイロン」  
が輸入され広まってきましたが、  
大正時代には炭火アイロンがさら  
に広まり、しだいに火のしは使われ  
なくなりました。

そして、昭和に入り便利な電気アイロンが登場すると、  
炭火アイロンも姿を消していきました。



ぼくたちが使っている生活の道具にも長い歴史があるんだね。

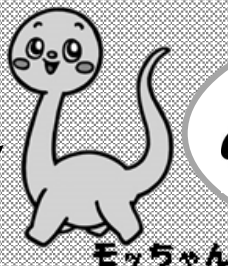


そうですね。電気が使われるようになって生活は大きく変わりました。  
みなさんが使っている生活道具の始まりを調べてみるのも、  
面白いかもしれませんね。



参考にした本 『昔の道具』(株)ポプラ社 2011年/ 『日本民具辞典』(株)ぎょうせい 1997年/  
『これなあに? 民俗No. 60』岩手県立博物館発行 2006年 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時  
のもので、最新情報ではございませんので、  
あらかじめご了承ください。  
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆し  
ております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>